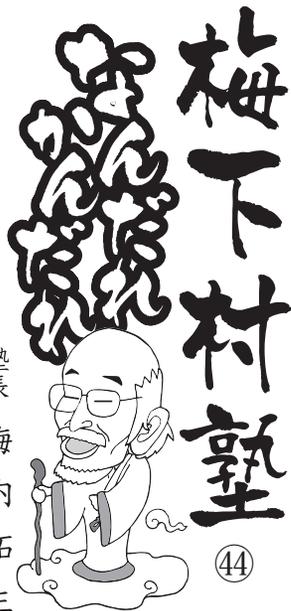


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

兼題「春暁」、雑詠
みさご句会5月句会

いる。人が生活してこそ、その土地への気持ちがあわいてきます。

「春暁や始発勤務の夫送る」

「枕辺の灯りを消して聞く祭の笛」

「余生とは言えどみじかき花衣」

(上部 素間)

「花むしろジューパンの脚投げ出して」

(佐藤 きよ子)

始発勤務の夫を送る
早朝の緊張のひと時、
送りだした後のほっと
した時間。緊張と充実
した時間、ほっとした
時に浮かんでくる限り
ある人生への思いが伝
わってきます。

枕辺の灯りを消す。
遠くの祭り笛が聞こえ
て来る。今日一日を顧
みる。清々しい春暁、花
に寝転んだ昼、そして
静な夜と、流れる時間
のその時を感じ取る。

「春暁やさまざまな音動き出す」

「返る家なき故里の桜かな」

「原発の主なき地や花の雨」

「ありのまま生きて悔いなし沈丁花」

(小田原 悦子)

(千葉 芳子)

春暁、生活の様々な
営みと音が動き出しま
す。放射能汚染で立入
禁止の人住まぬ地域は
もの音もせず、しとし
とと雨が花を濡らして

春暁、目覚めれば心
静まる爽やかな緊張の
時間、中国の威大な詩
人孟浩然の「春眠暁を
覚えず」となれば、こ
れはまた別の時間の関

係となり、「春暁と春眠」の關係の世界へ移ります。句題「春暁」、世界のいろいろな「春暁」につながる時、味わい深いものになりま

感じてこそ、過去が現在とつながり、そして、孤独のなかに生を

波で流された大量の漂流物が、北太平洋岸に相次いで漂流していることが問題視されている。気仙からもサッカーボールやバレーボールが流れ着いたという話もあった。持ち主は思い出の品の発見を喜んでいますが、美談だけでは済まされない深刻な状況が続いている」と記述して、「漂流ごみは、国際法上では流れ着いた国の負担で処理するというのがきまりとなっている」と述べている。

5月22日の東海新報、第5面のわんぱく広場「田植え頑張りました」猪川小学校の写真、クラスの友達と一緒に皆で行う田植え労働の緊張と楽しさが伝わってきます。子供の頃には、春暁に起きて、遠くの親戚の家の田踏や田植えを手伝った。起床の時は眠かったが、タバコ休みや昼飯の食事は楽しかった事を覚えている。

5月23日の第1面の世迷言には「ほとんど空気のような存在となっていた電力が原発事故で有限の存在であることをしらされた」と述べられております。半世紀前に、山本七平氏は著書「日本人とユダヤ人」で「日本人は水と空気と安全はただだと思っている」と述べていた。

世界の人と物品の交流が莫大に増加している現在、新しい国際法の取り決めが必要である。さらに、世迷言は「専門家の中にはごみ回収のタンカー派遣計画を立てて、実行に移すべきとの声もある」と述べている。

同日の第8面の「この情景思い出写真館茶や前通り残照(大船渡市大船渡町)」、5月25日の第3面の復興への願い随所に「名勝高田松原」と「奇跡の一本松」作品展々思い出と絆と共に未来へ

5月12日と13日に開催された「森と水と命の惑星」国際会議で指摘されたように、日本を始め世界の国々では地球の賄えるエネルギー以上のエネルギー消費をしている。まさに、山本七平氏の言葉

新バージョン「梅下村塾」は東海新報に掲載されている地域世界と「森と水と命の惑星」国際会議「地域と世界の心と魂を詠む」との世界を重ね、その奥に見えて来るものを伝えたいと思います。

春暁と春眠の關係の世界へ移ります。句題「春暁」、世界のいろいろな「春暁」につながる時、味わい深いものになりま

感じてこそ、過去が現在とつながり、そして、孤独のなかに生を

波で流された大量の漂流物が、北太平洋岸に相次いで漂流していることが問題視されている。気仙からもサッカーボールやバレーボールが流れ着いたという話もあった。持ち主は思い出の品の発見を喜んでいますが、美談だけでは済まされない深刻な状況が続いている」と記述して、「漂流ごみは、国際法上では流れ着いた国の負担で処理するというのがきまりとなっている」と述べている。